

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 8 7】
添付ファイル: 【専門家に聞く 薬物依存2】回復に必要なことは？ - 記事 _ NHK ハートネット (松本俊彦) .pdf; 【特集】薬物依存を考える “ハームリダクション”の現場から (1) 薬物をやめることより「支援につながることを重視 - 記事 _ NHK ハートネット.pdf; 修正意見書 (松本俊彦医師から郵送されてきたもの) .pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約400カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HPの「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS拡散」してください。

【目次】

- 1-1. 【特集】薬物依存を考える “ハームリダクション” の現場から (添付)
(1)薬物をやめることより「支援につながることを重視
- 1-2. ハートネットTV▽特集 薬物依存を考える (2) 生放送 薬物依存とどう向き合う？ (添付)
2. 立民の支持率急落 維新が野党トップ 産経・FNN合同世論調査
3. 松本俊彦医師の「修正意見書」について (再添付)

【記事】

- 1-1. 【特集】薬物依存を考える “ハームリダクション” の現場から (添付)
(1)薬物をやめることより「支援につながることを重視
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/331/>

言うまでもなく、NHK報道でも、『当事者の健康被害を減らすことを第一とし、薬物をやめることより、支援につながることを重視する「ハームリダクション」。カナダがこうした取り組みを始めたのは、薬物使用による影響が大きな社会問題となったからです。』としている。つまり、カナダは違法薬物の”水際対策に失敗“して、国内に蔓延した結果、止む無く、“ハームリダクション”施策を採ったのである。注射器の使い回しなどによりエイズが蔓延し、医療費が膨張したからである。そのような政策を、水際対策が成功している日本に持ち込む意味はまったくなく、暴論であろう。必要なことは、「違法薬物使用は、刑罰だけでなく、治療にもつなげること」であり、違法薬物使用の非刑罰化など論外である。要は、社会政策の中身の問題であり、セーフティーネットの充実の1つに過ぎない。

特に、我々が問題にするのは、**NCNP松本俊彦医師が「① 医療上処方されたベンゾジアゼピンによる薬物依存は、誰も薬物依存と呼ばず、医学的治療の対象ではない。」、「② ベンゾジアゼピンは薬物依存を生じず、医師の処方に従えば、ベンゾジアゼピンは薬物依存となる可能性は低い。」などと医学的事実に反する公式見解を述べているため、違法薬物問題を論じる資格がなく、信用できない点である。**

それにもかかわらず、NHKは松本を重用して、今日4/15PMのハートネットに出演させており、言語道断である。皆さんも「NHKハートネット」のリンク先に意見を投稿していただきたい。投稿先は以下である。

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/new-voice/>

1-2. ハートネットTV▽特集 薬物依存を考える(2) 生放送 薬物依存とどう向き合う? (添付)

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/program/heart-net/1336/>

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/330/>

松本の意見は、以下のNHK報道と乖離している。

大麻所持などの検挙者 3年連続で過去最多 低年齢化傾向強まる _ NHKニュース (BYA) 【情報 Vol.182】から)

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200402/k10012363881000.html>

以下引用

『薬物に詳しい専門家は「安易な好奇心から大麻を使用し、その後、覚醒剤やコカインなどより依存性が高い薬物に手を出す若者も多い」としていて、警察庁はインターネット上での取締りなどをさらに強化しています。』

当会の公式見解としては、以下のとおりである。

「ゼツタイダメ、と言われ規制されてきた違法薬物に興味本位で手を出して抜けられなくなった患者を救済するために、税金から成る国家予算を使用することは、優先順位が低い。それよりも、医療者による処方薬物のベンゾジアゼピンにより依存症となった患者の救済の方を優先するべきである。国家財政が大赤字の時代に、違法薬物依存症患者の救済に国の予算を使用する余裕はない。また、災害被害者など、違法薬物患者よりも救済を優先すべき国民が他に多数存在する。」

2. 立民の支持率急落 維新が野党トップ 産経・FNN合同世論調査

<https://www.sankeibiz.jp/macro/news/200413/mca2004131558008-n1.htm>

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200413/k10012384611000.html>

以下引用

『野党第一党の立憲民主党の支持率が3・7%と急落し、新型コロナウイルス対応をめぐって安倍晋三政権への批判を取り込めていない現状が浮き彫りになった。一方、日本維新の会が5・2%と急伸し、野党トップの座に躍り出た。』

立憲民主党は、先般の国会で「学校の休業は時期尚早で、取り消すべきだ」と言いながら、緊急事態宣言が出れば「遅きに失した」などと言っている。これでは、与党の揚げ足取りをするのみで、国民の信頼は得られない。その結果、支持率も急落した。また、不倫疑惑の山尾議員も離党し、ガバメントもなくなってきている。私は立憲黨員であるが、これでは余りにも頼りない。

3. 松本俊彦医師の「修正意見書」について

【情報 Vol.184】2020/4/10において、松本俊彦医師の「修正意見書」が裁判所に提出されたことを情報提供した。その内容は、松本俊彦医師本人しか知り得ない事実が記載されているため、真実の修正意見書と考えている。

また、修正意見書の冒頭で、『原告を始めとする国内に多数存在するベンゾジアゼピン副作用被害者の実情を鑑み、自らの知見に反する意見書を記載し提出したことに対して、自責の念を禁じ得ず、ベンゾジアゼピンの副作用に関する医学的真実を明らかにするため、本修正意見書を作成することを決心したものです。』としていることに対して、敬意をはらいたい。この修正意見書が真実のものであれば、松本医師はその立場を回復できるであろう。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史